

目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	商学研究科
大項目	4 教育研究組織 (研究科)
中項目	
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。
要素	教育研究組織の編制原理 理念・目的との適合性 学術の進展や社会の要請との適合性 (KGI) 研究活動の状況
小項目	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. アドバイザリー・パネル制度を改編する。	→2005年度末に制定されたアドバイザリー・パネルに関する内規の改善内容 (委員の人数、任期、資格、役割の明確化などの再検討内容)を行うための会議開催回数。	C	C	C	D	
2. 研究科の使命・目的に照らして教育研究組織が妥当であるか否かに関して、継続的に検証する。	→妥当性の常時継続的検証のための会合開催回数。	C	C	B	B	

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	アドバイザリーパネルは実務家の観点から教育をサポートするものであり、マネジメントコース(いわゆる社会人大学院)を開設していた時のなごりである。既にマネジメントコースは廃止されたことと、マネジメントコースを閉鎖したことによる予算の大幅削減により、アドバイザリーパネルを再開することは現実的には不可能であり、当目標は削除されるべきであろう。
目標2	商学研究科の教員は、商学研究科単独で採用されるのではなく、学部の教員が兼任している。新任人事は学部での採用人事の際に商学研究科の理念・目的を実現するためにふさわしいのかも考慮して行っている。このため、現在の教員組織は、商学研究科の理念・目的を実現するためにふさわしいものとなっている。なお、2012年度からは、教員・教員組織の方針として、学部と商学研究科が密接に連帯して、商学研究科の理念・目標の実現に必要な教員組織を編成を行うことを明文化した。またカリキュラムについては、毎年、各分野において適切な開講科目と担当者を検討し、その結果を研究科委員会において審議、決定している。方針の明文化を受けて、昨年度同様に進捗評価をBとした。
備考	